

ポップス歌手

昭和音楽大学大学院卒業・韓国出身の

Jisongさん

日本と韓国の架け橋に……

Jisongさんお久しぶりです。以前にも取材させて頂き、今回は2度目ということですが、改めてJisongさんにお話を聞かせていただきたいと思います。



**その後、日本での生活には慣れましたか？また、先日大きな地震がありましたか？**

今では自分の国のように日本にいるのが当たり前の気持ちで生活しています。

今回の地震は「いつもと違うな？」と思い、急いで事務所に行きました。韓国は、身体に感じるような地震が全くないので怖かったです。

**韓国と日本の違いについて感じることはありますか？**

若い女性について「流行」というものが、日本ではあまり取り入れず、各々の個性で楽しんでいるように思います。韓国は、みんなが同じスタイルにしてしまいます。日本の女性は「美」に対する意識が高いですね。友達との話題も「美」に対する情報交換が多いです。

面白い話があり、韓国では、女性は70%が普通の体型でも「太っている」と思っていて、男性は70%が「自分は格好良い」と思っていると言われているんですよ。

**音楽を仕事にしたきっかけはどのようなことからですか？**

母がピアニストで家で教えていたため、子供の頃から「音楽」を耳にしていました。また、教会にも通っていたので、「聖歌隊」に入り親しんでいました。そして、高校生の時に将来のことを考えることがあって、その時に歌を歌っていきたくて強く感じ、決心しました。

姉と2人姉妹で、姉も同じ声楽家になっています。

**この4月より、NHK・Eテレ(教育テレビ)のハンゲル講座にご出演されていますね。韓国語と日本語は非常によく似た言葉もありますが、いかがですか？**

漢字や文法的にも日本語とよく似ています。

TV出演ということで、最初は緊張し顔の表情が硬かったのですが、今は少しずつ楽しんでやれています。

そして、日本と韓国の架け橋になれるように頑張っていきたいです。

**これまで川崎市でも多くの音楽活動をされていますが、川崎市や「音楽のまち・かわさき」の印象はどうか。**

昭和音楽大学や洗足学園音楽大学などの音楽大学や、日本映画大学があったりと「芸術」にあふれている街だと思います。

**5月7日に「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2011」で行われたチャリティーコンサートはいかがでしたか？**

歌の内容が心を癒すものが多かったので、より一層感情を込めて歌いました。自分の中でも悲しみ、喜びといったいろいろな感情が浮かび、歌えたことがとても嬉しかったです。会場には被災地の方も招待されていたので、少しでも幸せな時間になればと思います。本番が終わりお客さんの顔を見て、私はこのような歌手になれてよかったと心から思いました。

**今後の音楽活動についてお聞かせ下さい。**

これからもライブ活動を中心としていきたいです。チャリティーコンサート等にも出演していきたいと思っています。まだ具体的には決まっていませんが、新しいCDも出していきたいと考えています。

また、NHK・Eテレ(教育テレビ)で毎週火曜日23:00より放送中の「テレビでハンゲル講座」にも出演中ですので、一緒にハンゲルを勉強しましょう。



▲佐藤忠男氏(左・アルテリッカしんゆり2011実行委員長)とともに、阿部市長(中央)に義援金の目録を手渡したJisongさん

流暢な日本語で楽しいお話を聞かせていただきました。先日のチャリティーコンサートでは募金活動もされたJisongさん。これからも私たち日本人を美しい歌声で魅了して下さい。幅広いご活躍を楽しみにしています。

(取材・文：編集ボランティア 相沢明子・伊東 都)

